中国だい好き　2024年度第2回講演会

2024年6月16日（日）

於東久留米市東部地域センター

石川照子（大妻女子大学比較文化学部）

纏足再考

――足元から考える中国女性史――

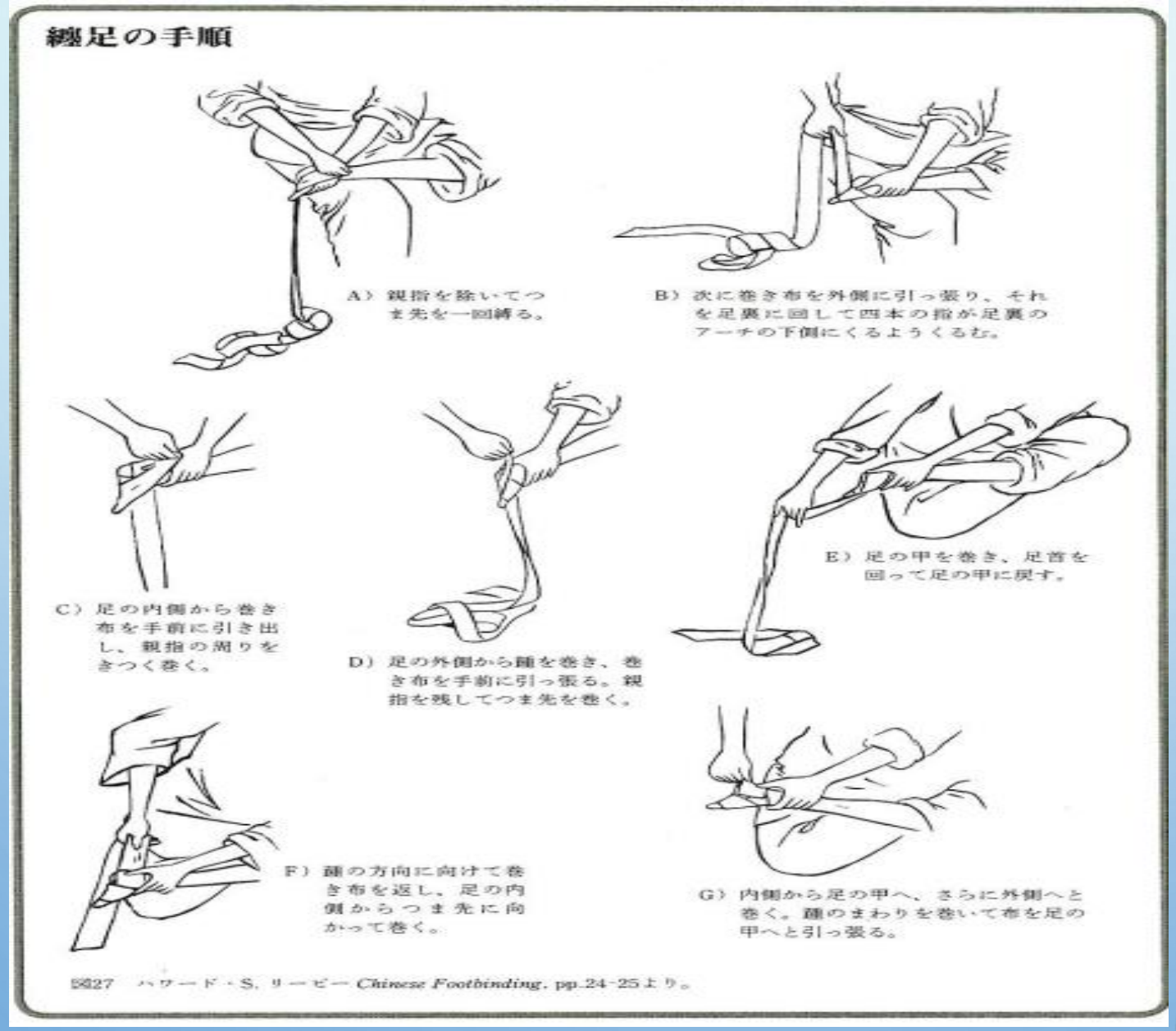
＊纏足：幼時（3、4才時）に女性の足を成長しないように緊縛した、中国の風習。明・清時代をピークに千年以上続いた

＊「子供は痛苦に泣き叫ぶ。皮肉は腐敗し、鮮血。折るは眠れず、食も喉を通らない。種々の疾病、このために生じる」（「不纏足運動――束縛を解き放つ」）

＊女性に大きな苦痛を与え、束縛した纏足は、一方で「美」の基準となり、女性たち自身が「主体的」に施す

→<u>纏足とは何を表象し、女性たちにとって何であったのか？</u>

＊纏足の手順、影響


纏足の手順
A）親指を除いてつま先を一回縛る。
B）次に巻き布を外側に引っ張り、それを足裏に回して四本の指が足裏のアーチの下側にくるようくるむ。
C）足の内側から巻き布を手前に引き出し、親指の周りをきつく巻く。
D）足の外側から踵を巻き、巻き布を手前に引っ張る。親指を残してつま先を巻く。
E）足の甲を巻き、足首を回って足の甲に戻す。
F）踵の方向に向けて巻き布を返し、足の内側からつま先に向かって巻く。
G）内側から足の甲へ、さらに外側へと巻く。踵のまわりを巻いて布を足の甲へと引っ張る。
図27　ハワード・S. リーピー *Chinese Footbinding*, pp.24-25より。

・ 纏足のための道具類
(左から時計回りに)
・足を縛る巻き布のロール。白と色染めのもの。20世紀　BSM
・足につける薬用の粉の瓶。昔の処方に基づいて今日の台湾で調合したもの。柯基生コレクション
・巻き布を入れて香を焚きしめるための竹製ケース。19世紀　柯基生コレクション
・裁縫用の鋏。19世紀　BSM
・中央市場の商店で売られていた纏足用の香料の粉の箱。20世紀初期　柯基生コレクション

肉体に与える纏足の影響

纏足は足に三つの肉体的影響を与える。

1）足の長さを縮める。
2）足の裏を整形して足甲を厚くし、上にはアーチ型のでっぱり、アーチ下の足裏には深い割れ目を作る。
3）足の幅を狭める。

足の整形は足の靭帯と腱を曲げて伸ばし、その結果、骨の位置を移すことで完成する。纏足は足の骨を壊すわけではない。

正確に言うと、中足骨を下方に曲げるとともに靭帯を伸ばし、中足骨を楔状骨と立方骨へ合わせることによって足の甲のアーチ型を作る。これらの骨は長く纏足するうちに萎縮する。甲の下側、土踏まずの深い割れ目は、踵骨を内側に押し曲げることによってできる。その結果、踵は腓骨（下腿部の長い外側の骨）とほとんど平行になり、床から直角に立ち上がることになる。

身体の重さを支えるのは次の三点である。踵（ここでアキレス腱が踵骨についている）、第１中足骨の先、足裏に折り曲げられた第３・第４・第５の中足骨である。纏足の女性はすり足でゆるゆる歩く。その動きを進めるヒップと大腿部の筋肉は強くなる。しかし膝と足首の間の下腿部は平素使わないために萎縮する。

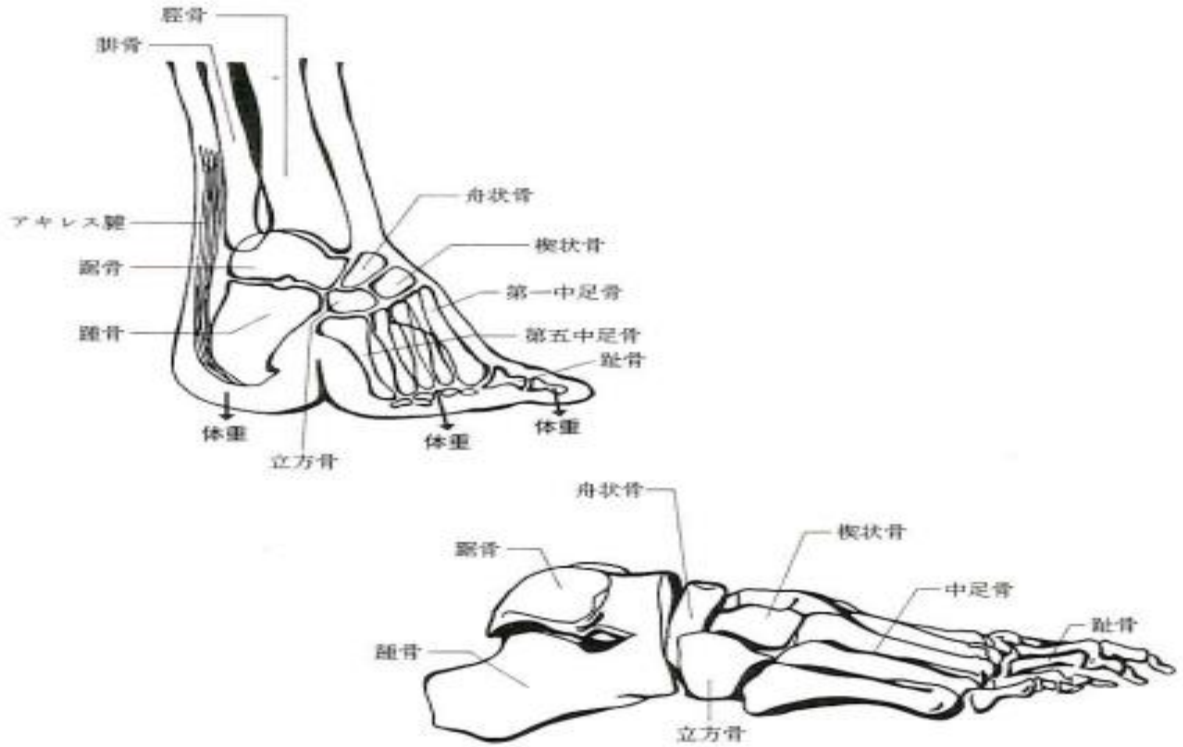


図28　柯基生『深閨紅顔涙』p.28より。

纏足をした上流階級の女性
（1900年頃，米国国会図書館・蔵）

羊の蹄のような纏足（写真）と、X線透視図による靴をはいたときの纏足

＊纏足の靴(三寸金蓮)

図32　濃い緑色のサテンの靴。刺繍のモチーフは科挙試験に合格した人物が馬に乗って帰宅する図。夫の出世を願う花嫁の願いをあらわす。サイズ12cm　20世紀　BSM

図33　婚礼のための入れ子になった山東型の靴。内側は寝台用の靴で、靴底と踵の部分はキルトになっている（サイズ18.4cm）。外側は赤のサテンで靴底に装飾がある（サイズ21.2cm）。20世紀　柯基生コレクション

＊纏足の女性たち

繊細なかたちの纏足靴を作る中国の女性。花瓶に生けられた蓮の花同様、この上品な女性の姿も美しさと敬虔と清純の理想を表している。
19 世紀末　Mrs. Charlotte Horstmann 提供　LTI Photo Lab.

図48　広幅のズボンをはいた若い女性。裾の太い黒のラインが強調されて靴のつま先に注意が集まる。
清末宣統時代（1909-1911）　何基生氏提供

＊纏足の起源と拡大

＊起源

・未だ解明されず。隋・唐以前は確証なし（楊貴妃の靴が小さかったという説あり）。宋代に極少数ながら士大夫層で行われていた（「小足が美人の要件」に）

＊拡大・・・やがて南方へ拡大

・元代・・・元曲・雑劇に表現される

・明代・・・纏足をしないのは卑しい女とされ、良家との結婚困難に。一般庶民にも広く普及

・清代・・・最高潮に。盛装した女性たちの肖像写真の纏足

＊地域的偏差

・チベット・新疆・寧夏には広まらず

・東北三省・内蒙古・・・漢人の移住に伴い増加

・黄河流域の内陸部各省で盛行・・・特に山西省。陝西、甘粛

・内陸部の安徽・江西、沿海部の江蘇・浙江の特に都会は比較的少ない

・福建・広東・広西・台湾・海南島では普遍的な風俗ではなかった

・少数民族、客家には纏足の風習はなかった

＊階層的拡大

・一部の上層支配階級の女性や妓女たち　→　一般庶民へも拡大

表 2　山東省青島の纏足状況（1938 年）

年齢	例数	纏足	%
20 以下	18	0	0
20–30	162	25	15. 4
30–40	54	43	79. 6
41–62	23	23	100. 0

表 3　奉天・鞍山の纏足状況（1938 年）

年齢	例数	纏足	%
15–19	84	6	7. 1
20–24	193	36	18. 7
25–29	109	35	32. 1
30–33	13	9	69. 2

表 4　奉天の纏足状況（1939 年）

年齢	例数	纏足	%
18–19	12	1	8. 3
20–29	83	17	20. 5
30–39	52	20	38. 5
40–49	31	20	64. 5
50	2	2	—

表 5　台湾省基隆の纏足状況（1942 年）

	年齢	例数
正常	18–20	58
	21–30	212
	31 以上	110
纏足	34–40	17
	40–50	23
	50–60	0
	60–67	5

表 2 ～表 5

出典：吉岡郁夫『身体の文化人類学――身体変工と食人』雄山閣出版、1989 年、248～249 ページより作成。

＊反纏足運動の展開

・宋代にも批判あり。清代には政府も禁令発布（1664年、康熙帝）

・清末・・・「男女平等」「女権」等の欧米思想の流入→社会改革、女性解放運動

・外国人キリスト教宣教師・・・1875年、雑誌『万国公報』の記事の影響（「野蛮で遅れた風習」）。1895年、英国商人の妻リトル夫人が「天足会」を設立

→留日学生、女性活動家らに拡大

・1883年：康有為、広東に不纏足会を創立　←日清戦争の敗北。救国・富国強兵の希求

・1897年：梁啓超、譚嗣同ら、不纏足会を設立し（本部：上海）、規約を制定（女性を苦痛から救うというより、不纏足者の結婚難解消が主目的）

→全国的な不纏足運動ブームへ

・1898年：光緒帝、纏足禁止令発布　→保守派の抵抗。運動の頓挫

・辛亥革命後の1912年：臨時大総統孫文、各省に纏足禁止を勧告

・1920年代以降・・・国民政府、繰り返し纏足禁止令を発布。新生活運動（1934年～）における衛生問題として一定の成果

・1940年代、日中戦争中でも禁止令発布。但し、戦乱から逃れる必要

・中華人民共和国建国後・・・1950年代に纏足終息。1990年代以降徐々に消滅

＊纏足の表象したもの

＊「美」

・性的付加価値化・・・纏足を性的魅力の要件とする男性の嗜好の広がり

・容貌・家柄・財産と並ぶ結婚条件としての比重の高まり、必須条件化

＊「束縛」

・奇形化した足・・・歩行は不自由。日常の行動制約（労働、移動、育児）

・男性が女性を支配管理する社会を象徴するもの。封建的な父権社会の社会秩序遵守を示す符号

＊女性たち・・・幼児期の壮絶な苦痛の経験。纏足をしていない女性に対する優越意識（内面化）。纏足の誇示（コー：纏足を女性主体の文化としてのとらえ直し）→声

＊漢族文化の象徴・・・清朝の支配者である満族との差別化

○『譲女人自己説話――文化尋踪』に登場する女性の紹介

女性					話の内容				
	名前	年齢※	民族	出身地	纏足の施術	開始年齢	施術者	放足	その他
①	許淑鳳	83	漢族	山東省	○	6	従兄	○	――
②	呂四華	78	漢族	山東省	○	8	母	――	――
③	劉玉蓮	90	漢族	河南省	○	――	母	○	――
④	彭林領	82	漢族	河南省	○	3、4	母	――	纏足靴について
⑤	万玉梅	71	漢族	河南省	○	6	母	○	――
⑥	蘭李氏	84	漢族	河南省	○	――	祖母	○	――
⑦	劉桂雲	83	漢族	河南省	○	――	祖母	○	男性の纏足について
⑧	靳三妞	78	回族	河南省	○	――	母	○	――
⑨	陳秀珍	72	漢族	河南省	○	5、6	自分	○	――
⑩	楊亜芳	77	漢族	安徽省	――	――	――	○	――
⑪	賀秀英	77	漢族	陝西省	――	6、7	――	○	纏足ほどき歌
⑫	譚愛芝	80	漢族	湖南省	○	5	母	○	祖母、母の纏足
⑬	馮大娘	80	漢族	陝西省	――	――	――	○	学校について
⑭	劉大姐	76	漢族	河南省	――	――	――	○	教会学校について
⑮	李風蘭	66	漢族	山東省	○	9	自分	○	――
⑯	郭増蓮	78	漢族	河南省	○	10	自分	○	纏足靴について

※インタビュー時（1992～95年）の年齢

出典：李小江編『譲女人自己説話――文化尋踪』生活・讀書・新知三聯書店、2003年、235～257頁より作成。

（小林明日香「中国女性から見た纏足」）

＊外国人のまなざし・・・好奇心と蔑視。「野蛮で遅れた習慣」

コー：欧米人の断片的な中国観察が、いかに恣意的に中国イメージを作り替えたかを指摘。

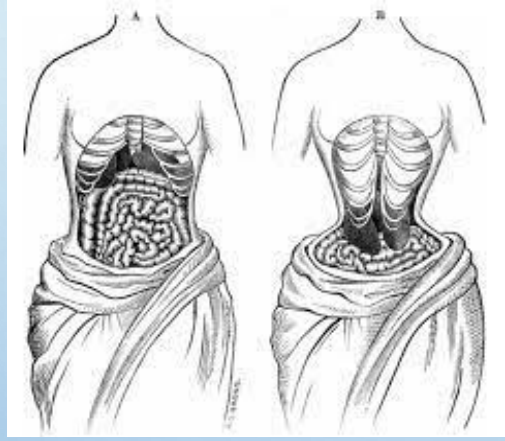
＊康有為、梁啓超ら立憲派男性知識人たち・・・外国人たちのまなざしを受容。清末の列強による中国侵略が進行している中で、救国、富国強兵の必要性を痛感　→反纏足運動展開・・・目的のための女性の身体の利用・動員。放足（解足）による女性たちの再びの苦痛。賞賛から蔑視へのまなざしの大転換

＊女性の身体加工

＊「美」と「女性らしさ」の追求

・コルセット・・・細いウエストの強制

・ハイヒール・・・ #KUTOO運動・・・女性らしさの強制に反対



＊＊纏足、コルセット、ハイヒール・・・共に身体を通しての女性役割、女性規範の 強制。多大な苦痛の代償の意識の内面化も、主体的選択ではなく、強制の結果と言える

参考文献

・岡本隆三『纏足物語』東方書店、1988年

・馮驥才著、納村公子訳『三寸金蓮』亜紀書房、1988年→(『纏足』小学館文庫、1999年)

・吉岡郁夫『身体の文化人類学ーー身体変工と食人』雄山閣出版、1989年

・夏暁虹著、藤井省三監訳、清水賢一郎・星野幸代訳『纏足をほどいた女たち』朝日新聞社、1998年

・東田雅博『纏足の発見ーーある英国女性と清末の中国』大修館書店、2004年

・坂元ひろ子『中国民族主義の神話ーー人種・身体・ジェンダー』岩波書店、2004年

・ドロシー・コウ著、小野和子・小野啓子訳『纏足の靴ーー小さな足の文化史』平凡社、2005年
・高洪興著、鈴木博士訳『図説纏足の歴史』原書房、2009年
・スーザン・マン著、小浜正子・リンダ＝グローブ監訳、秋山洋子・板橋暁子・大橋史恵訳『性からよむ中国史ーー男女隔離・纏足・同性愛』平凡社、2015年
・李小江編『讓女人自己説話ーー文化尋踪』生活・讀書・新知三聯書店、2003年
・ドロシー・コー「中国の衣服と体のイメージーー16世紀から19世紀におけるヨーロッパ人の旅行記から」中国女性史研究会編『論集　中国女性史』吉川弘文館、1999年
・高嶋航「女性解放への歩みーー戒纏足会/天足会/不纏足会」野口鐵郎編『結社の世界史2　結社が描く中国近現代史』山川出版社、2005年

・「纏足」関西中国女性史研究会編『増補改訂版　中国女性史入門ーー女たちの今と昔』人文書院、2014年
・「不纏足運動ーー束縛を解き放つ」中国女性史研究会編『中国女性の一〇〇年ーー史料にみる歩み』青木書店、2004年

・小林明日香「中国女性から見た纏足」大妻女子大学比較文化学部2005年度卒業論文

＊「美か束縛かーー纏足・コルセットの歴史と＃KUTOO運動　」 展（2022年5月12日～10月5日。聖心女子大学グローバル共生研究所）

等